



今月の題字
渡辺 護さん

(千葉県君津市)

「富弘美術館を囲む会」千葉県支部長の渡辺さんは、星野富弘さんと群馬大学器械体操部時代からの親友。お二人の会話を横で聞いているうちに心が温くなりました。

虹の架橋検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

蔵人新宇にカフェがオープン
蔵とアートを組合わせた大間々の新名所『蔵人新宇(くらう)とあらう』に土蔵の蔵を改装したカフェがオープンしました。江戸時代から続く新宇商店の先祖・新井宇兵衛の名は文化十二年に建立された三丁目常夜灯の寄進者として台座の石にも刻まれています。



新宇商店の敷地内には一号〜四号までの蔵が並び、五号蔵や表門の辰巳蔵も古き良き時代の面影を残しています。三号四号蔵は瀬戸物蔵とも呼ばれ、大正から昭和にかけて仕入れたままの陶器や磁器が藁に包まれ

て、二つの蔵にぎつしりと積み上げられています。蔵人新宇では、昨年からは、これらの生活陶器を「宝探し」の感覚で買物ができるように展示販売コーナーを設置し、土蔵を活用したカフェの計画も着々と準備を進めてきました。



世界一小さな
定利屋
トイレ美術館

今月の作品《309》
大野勝彦さん『倅せは…』



熊本県在住の義手の詩画家・大野勝彦さんは四十五歳の時、農作業中に機械で両手を切断。失意の中で気づいたのは人の優しさと家族の温もりだったと言います。大野さんは阿蘇の麓に「大野勝彦美術館」を作りましたが、五年前の熊本地震で美術館も被災。しかし、一年後の同じ日に再開。「苦難のたびに強くなるんじゃない、優しくなれたらいいな」と語る大野さん。「倅せは気づいた時から始まる。ほんとうは幸せなだけで、さよならのあとに気づく」という大野さんの言葉に教えられています。

小耳にはさんだ
いい話
(文責・靖)
《309》



桜の花が散る季節になると思い出す人がいます。大間々で草漣窯という工房を主宰していた絵付陶芸家の米山和子さんは八年前、桜の花が美しく散るように、六十二年の生涯を閉じました。「幸せ」「嬉しい」「有難い」が口癖の素敵な女性でした。自宅前の渡良瀬川の四季折々の景色を愛し、「私の肩に鳥が止まったのよ。私を枯れ枝と間違えたのかしら」と笑った横顔が今でも忘れられません。

お別れの会は、彼女の望み通り、ごく少数でお経も唱えず、お線香も焚かず、彼女の柩の横には

天国からの手紙

工房の庭に咲いていた紫色の花大根の花が飾られていました。

お別れの会の後、息子さんと娘さんの名前で封書が届きました。それは、米山さんが生前に書き遺していた天国からの手紙でした。

『松崎靖様・和子様 私・米山和子は四月二十四日に膵臓癌で旅立ちました。私は、死が再生につながると考えています。木々も秋は葉を落とし、花もいつかは枯れま

ました。山々を私は尊敬しています。落ち着いたら、子供達に(私の骨を)粉にして、海にまいてもらおう予定です。海に溶け、空に昇って雲に乗り、山に雨を降らせ、一滴の水となつて川を下って、思う人の心にいつもいます。いつも見守り励まします。最後に、お世話になった方々へ心から感謝しています。ありがとうございました。』

手紙に添えられていた息子さんと娘さんからのメッセージには「全身全霊の人生は息子の私から見ても、とても気持ちのいいものでした」、「母が感謝と笑顔のうちに旅立てたのは皆さまのおかげと私もとても感謝しています」と書かれていました。



私たちが夫婦が最後に彼女の家を訪れた日、「かけた年金をもらわずに若い人たちのために使ってもらえて嬉しいわ」と笑っていた彼女の一言が今でも心に深く残っています。

靖ちゃん日記

令和三年四月十二日(月)
運転免許証の更新に行ってきた。十八歳の誕生日直後に初めて免許をとったので運転歴は五十年以上。心配なのは視力検査だった。普段はメガネをかけずに生活できるが本や新聞を読む時には老眼鏡のお世話になつている。今朝は松山英樹のマスターズ優勝のテレビを観ていた。高瀬菜局が目がパツパツする目薬を買って桐生の交通センターへ行った。視力検査係は感じのいいオネエちゃんだったのでパツパツ見えて難なく合格、写真は心の準備を整える前に撮られたので実物よりジーンと写った。今度はゴールドカードにすると買った。今度は水色のカードだった。
次の更新は五年後の七十四歳。高齢者講習を受講しをければならなくなる。
漫才コンビと同様で、年をとるとボケ老人になるが、ブレイキとアケセルを踏み間違えつつも老人になるのかもしれない。

四月二十九日は「昭和の日」。私たちの祖父父母はこの日を「天皇誕生日」と呼び、私たちは「天皇誕生日」、昭和天皇崩御の後は「みどりの日」と変わり、平成十九年からは「昭和の日」となりました。近年は祝日に国旗を掲げる家が少なくなりましたが我が家では玄関に日の丸の国旗を掲げています。福島の友人が考案し、製造販売している国旗セットは玄関などに金具を取付けければ、一分で国旗を掲げることが出来るスグレモノ。祝日はただの休日ではなく、祝日の意味を次世代に伝える日です。今年も祝日が十六回あります。

